

# 和歌山県の地震

第 2 8 卷 6 号  
令和 2 年 6 月

## 和歌山県の地震活動

震央分布図	・ ・ ・ ・ ・ 1
断面図	・ ・ ・ ・ ・ 2
概況	・ ・ ・ ・ ・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・ ・ ・ ・ ・ 3
震度分布図	・ ・ ・ ・ ・ 3

## 地震メモ No. 319

南海トラフ地震関連解説情報 (令和 2 年 7 月 7 日)	・ ・ ・ ・ ・ 4
南海トラフ沿いにおける地殻変動監視の強化	・ ・ ・ ・ ・ 5

- \* この資料に使われている震源要素 (北緯・東経) は、世界測地系に基づいています。
- \* この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- \* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。
- \* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000 (行政界・海岸線) を使用しています。

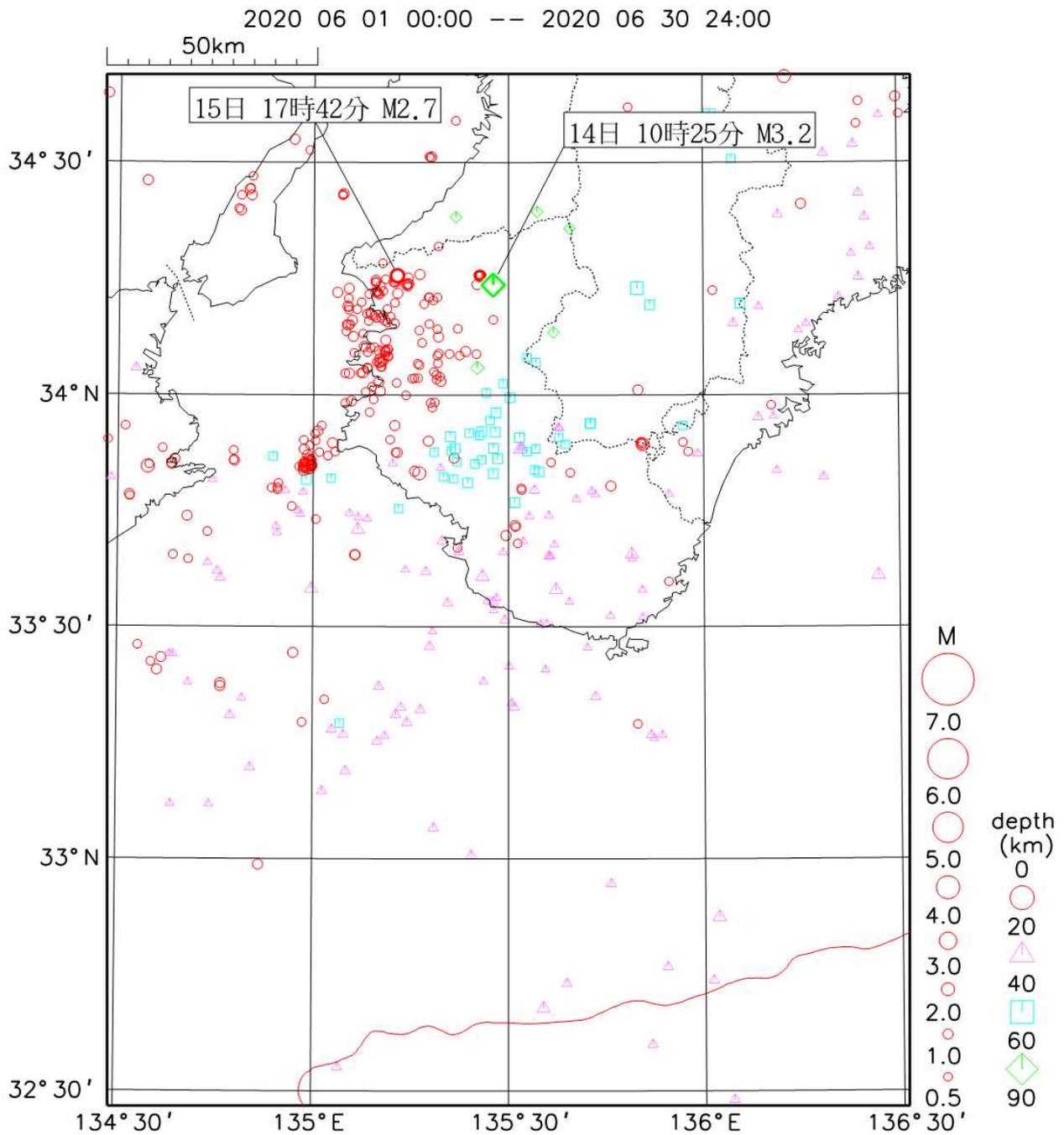
和歌山地方気象台

# 和歌山県の地震活動

2020年6月

和歌山地方気象台

## 震央分布図

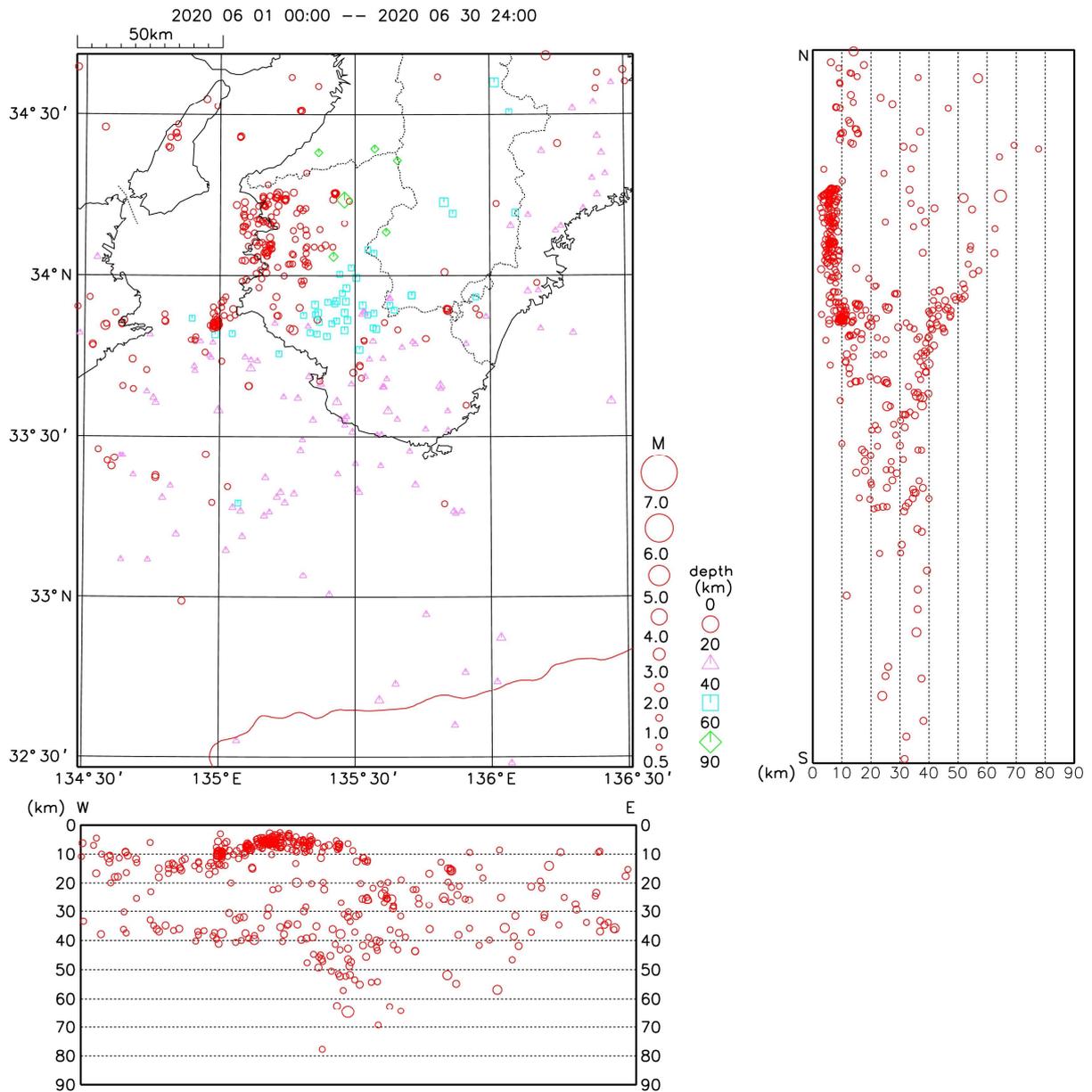


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

## 断面図



### 概況

6月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は17回(前月は25回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、14日10時25分和歌山県北部の地震(M3.2、深さ65km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

6月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、1回(前月8回)でした。

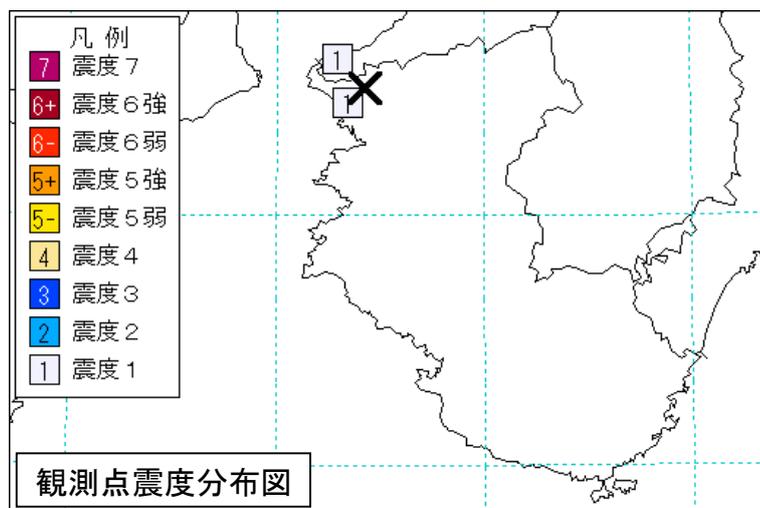
## 和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2020年06月15日17時42分	和歌山県北部	34° 15.4' N	135° 12.8' E	6km	M2.7
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*					

名の最後に\*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

### 震度分布図（図中の×は震央）

2020年06月15日17時42分 和歌山県北部の地震(M2.7、深さ6km)



## 南海トラフ地震関連解説情報 (令和2年7月7日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

### 1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 四国西部：6月4日から6月6日
- (2) 東海：6月29日から継続中

### 2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されているひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。

GNSS観測によると、2019年春頃から四国中部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。また、2019年春頃から紀伊半島西部・四国東部で観測されていた、それまでの傾向とは異なる地殻変動は、収束したとみられます。さらに、2019年中頃から志摩半島で観測されているそれまでの傾向とは異なるわずかな地殻変動は、最近鈍化しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

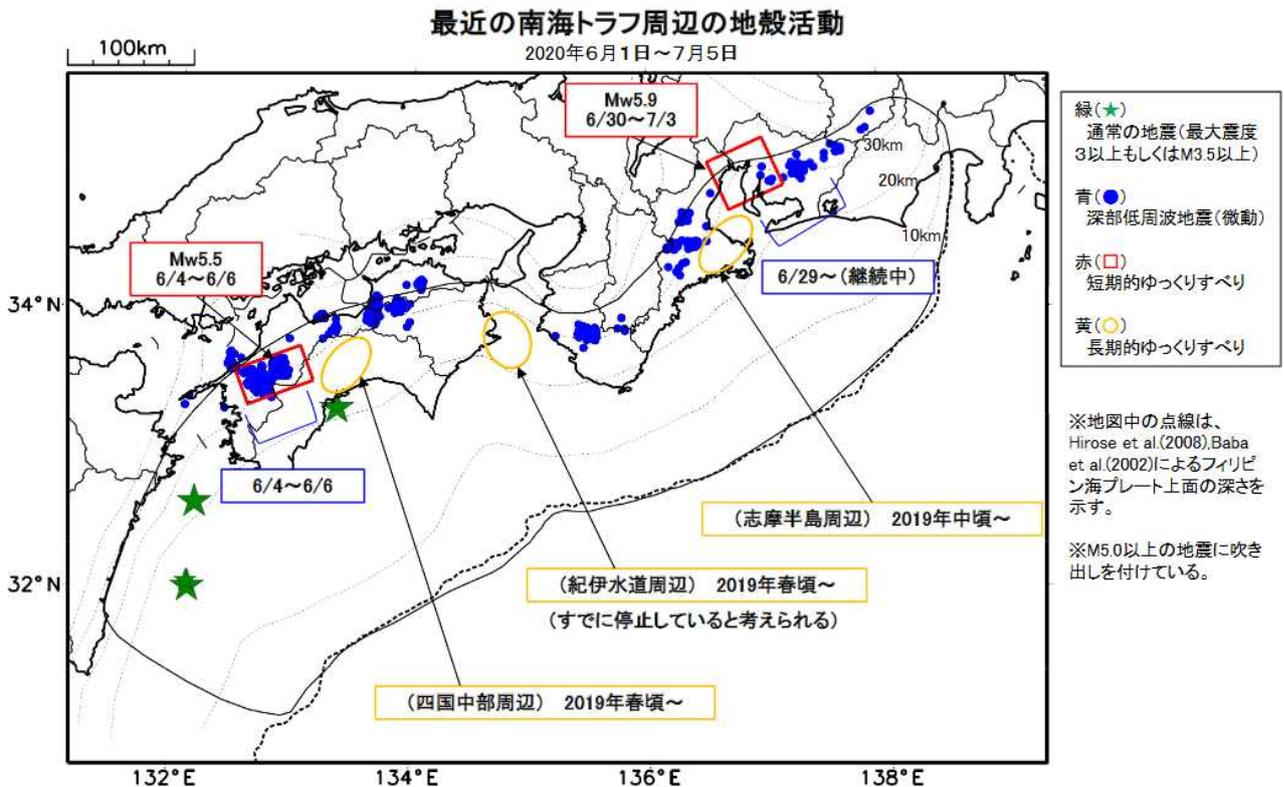


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項は以下 URL の資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください

# 南海トラフ沿いにおける地殻変動監視の強化

気象庁では、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下、産総研）が運用する愛知県、三重県、和歌山県、愛媛県、高知県のひずみ計（12観測点）のデータをリアルタイムで利用できるようになったことから、2020年6月25日から「ゆっくりすべり」の常時監視に活用するようになりました。

これにより、南海トラフ全域において、「ゆっくりすべり」の発生を早期かつ広範囲に検知できるようになり、南海トラフ地震に関連する情報をより迅速に発表することが可能となりました。

新たに活用を開始した観測点は、下記の12か所で図中に●で表示した地点です。また、以前から監視に利用していた観測点は、図中に●及び○で表示した地点です。

愛知県	豊橋多米（とよはしため） 豊田神殿（とよたかんの） 西尾善明（にしおぜんみょう）
三重県	津安濃（つあのう） 熊野磯崎（くまのいそざき）
和歌山県	田辺本宮（たなべほんぐう） 串本津荷（くしもとつが）
愛媛県	新居浜黒島（にいはまくろしま） 西予宇和（せいようわ）
高知県	室戸岬（むろとみさき） 須崎大谷（すさきおおたに） 土佐清水松尾（とさしみずまつお）

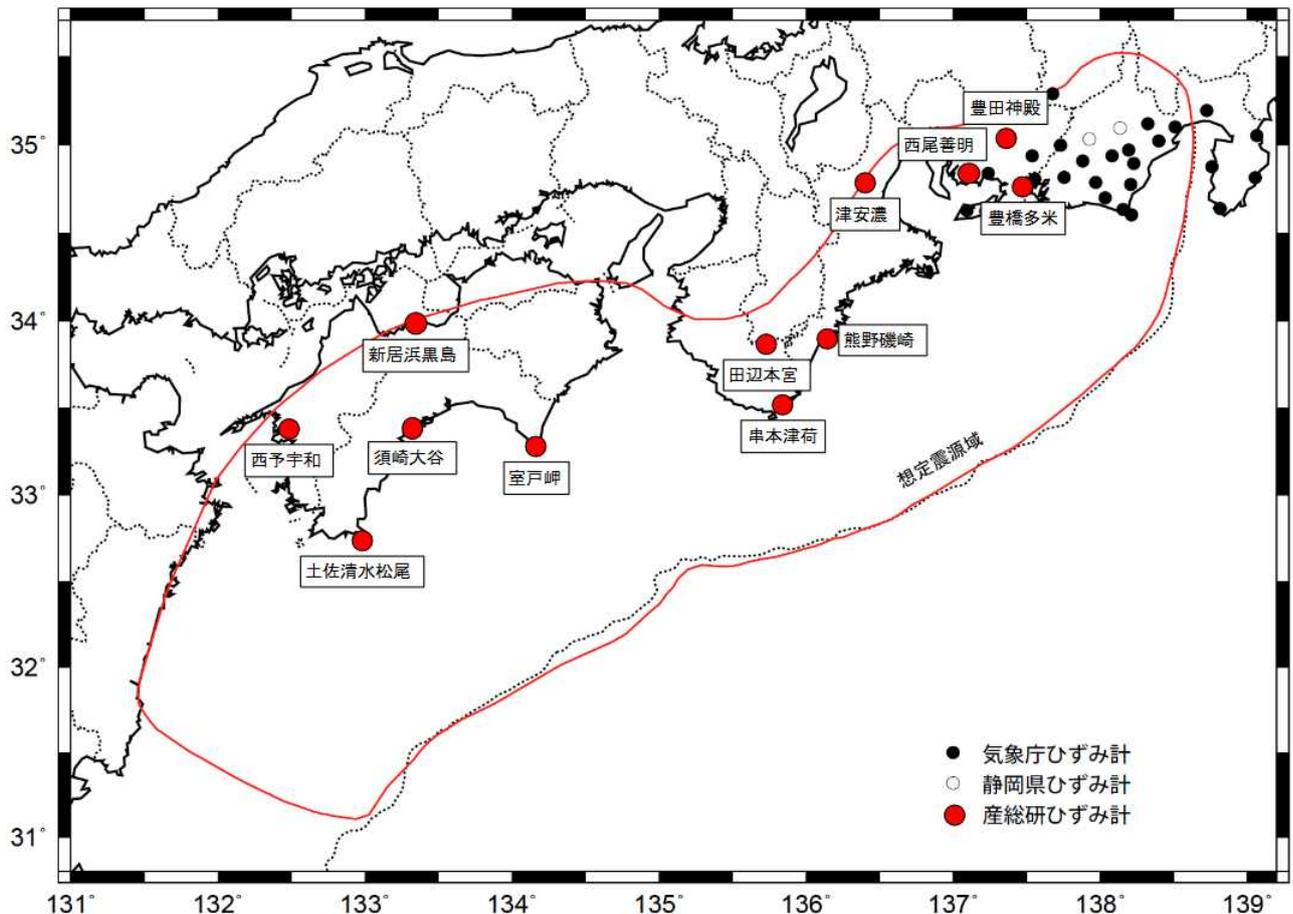


図 南海トラフ沿いのゆっくりすべり監視に用いるひずみ計観測点（報道発表資料より抜粋）

報道発表資料（気象庁HP）：<https://www.jma.go.jp/jma/press/2006/23a/nt20200623.html>